

# 金峯石 (きんぼういし)



鶴ヶ岡城址の紹介



外国語表記  
Language

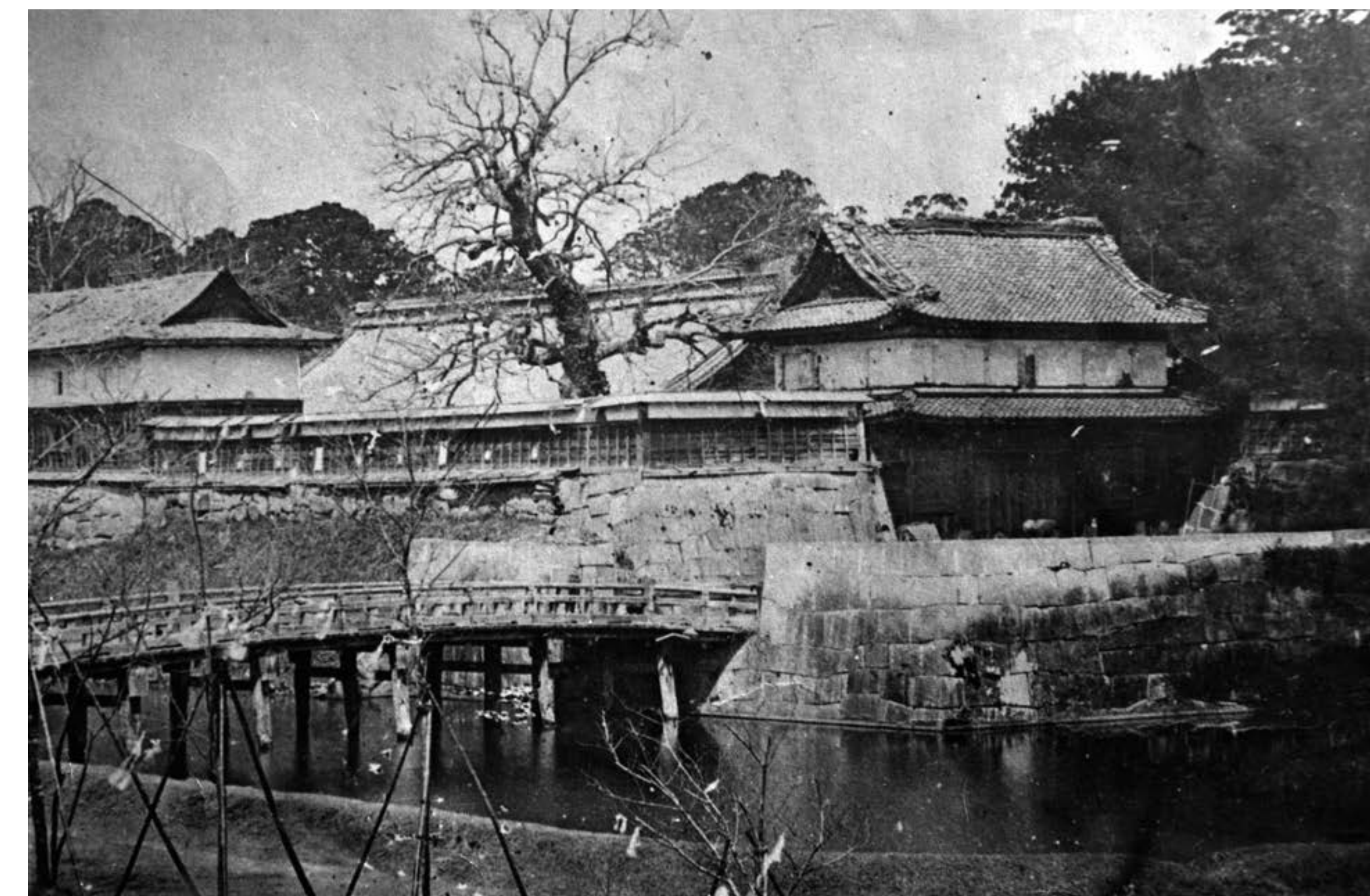
庄内平野の南端に位置している金峯山(標高471m)は、日本列島の深成岩の花崗岩質の岩石からなり、金峯山から切り出された花崗岩は、「金峯石」と呼ばれる。江戸時代から近年まで石碑、橋脚、墓石、土台石などに使用され、山内には採石場の跡が今も残る。

天和3年(1683年)に城内角櫓の石垣復旧に使われた金峯石は、山から切り出された後、舟で青龍寺川を下って大山街道の橋(現在の新海町)まで運ばれ、そこから動員された数千人の人夫によって大手門外まで運搬された(「酒井家世紀巻之六」)。

鶴岡公園内の各所に点在する金峯石には、鶴ヶ岡城の歴史を今に伝える貴重な無言のメッセージがある。



鶴岡公園から金峯山を望む



鶴ヶ岡城中の門(明治初期 写真 鶴岡市郷土資料館蔵)